

RIVER
One and Only Creator

第69期 株主通信

2013年4月1日～2014年3月31日

リバーエレクトック株式会社
証券コード 6666



2015年3月期は業績回復への立て直しと 新たな商品展開への地盤固めの期とします

代表取締役社長 若尾 富士男



リバーグループは今年（2014年）3月に創業65周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様のご理解とご支援の賜物であり、厚くお礼申し上げます。65周年をひとつの節目とし、小型製品で培った技術力をもって常に新しい価値を創造する企業としてさらなる成長を図ってまいります。また今年、リバーグループ上場10周年でもあります。すべてのステークホルダーの皆様にご満足していただけますよう、企業価値の最大化をめざしてまいります。

2014年3月期の業績とポイント

2013年の世界経済をみますと、米国では住宅市場の改善や企業の生産活動、個人消費などの回復により、景気は総じて堅調さを維持しました。欧州では金融緩和効果や内需の下げ止まり等によって景気回復に転じましたが、輸出の伸び悩みが影響して緩慢な状況が続きました。中国においても、内需の減速により経済成長は鈍化傾向にありました。日本では政府の経済政策や金融緩和政策への期待や円安・株高を背景に、個人消費の持ち直し等により成長率はプラスを維持しました。

水晶業界におきましては、景気回復によって生産及び受

注ともに好調さを取り戻しつつあります。このような事業環境のもとで、リバーグループは水晶デバイスの音叉型水晶振動子「TFX-03」やATカット水晶振動子「FCX-07L」といった超小型製品を軸に、事業展開と生産性の向上に努め、他社との差別化を図り収益の確保に取り組んでまいりました。

しかし、世界のスマートフォン市場においては主に中国メーカーの低価格帯モデルが急激にシェアを拡大していること、当社が販売ターゲットの中心に据えてきたハイエンドモデルは市場の飽和感による需要の鈍化に伴い価格競争が激化したこと、さらにデジタルカメラやテレビ等民生機向けの受注が低迷したことなどから、期初に描いていた計画とは乖離した事業展開を余儀なくされました。

以上の結果、売上高は5,734百万円（前年同期比7.6%減）、利益面におきましては2期ぶりの赤字を計上し、非常に厳しい結果となりました。営業損失は、コスト削減に努めましたが売上高の減収の影響が大きく、320百万円（前年同期は3百万円の営業利益）となりました。経常損失は177百万円（同134百万円の経常利益）、当期純損失は減損損失を計上したことなどから、236百万円（同112百万円の当期純利益）となりました。

第4次中期経営計画

リバーグループは「源流・創価・革新」を経営理念に掲げ、2011年を基点とした第3次中期経営計画（RIVER VISION 2013）では、高収益安定成長に向け「顧客の満足と信頼の獲得」「独創的発想による価値の創造」「事業構造改革による収益力の向上」を定め「高付加価値企業の実現」に全

力を尽くしてまいりました。第69期はその最終年度でしたが、売上高、利益ともに大きく未達となりました。

2015年3月期より、第4次中期経営計画（Innovation 2017）をスタートさせましたが、超小型製品を軸に価格競争力のある新設計品の投入やバリエーションの追加によって、販売の拡大と収益性の改善をめざし、経営の安定化を図ります。初年度である2015年3月期は、業績の立て直しの期と捉え、新たな商品展開と次なる成長への地盤固めをしたいと考えております。

基本的な方針である「全てのステークホルダーから信頼され、価値のある会社であり続ける」は継続して推進しますが、以下の経営ビジョンの下で2017年3月期連結営業利益率3%の目標達成に向かって、社員ひとりひとりが業務を全うする覚悟でございます。

経営ビジョン

「革新的技術を用いた最適価値の電子デバイスを世界に供給し、人々の暮らしと生活環境の向上に貢献する」

1. 革新的技術を創造する

リバーグループの企業DNAである「どこよりも小さく、どこまでも小さく」や経営理念に掲げる「可能性に挑戦し続ける」という思想に基づき、革新的な技術を創造、確立し、新しい価値を提供する。

2. お客様のベスト・バリューを提供する

お客様が期待する価値を的確に捉え、お客様に満足いただける価値を提供し、常にお客様に信頼されるパートナーとなる。

3. グローバル企業へ変革する

世界を活躍の場とし、環境に優しく、豊かで快適なデジタル社会の実現に貢献する。

70期（2015年3月期）の業績予想

次期の見通しにつきましては、中国やその他新興国経済の先行きには不透明感もありますが、国内外経済は概ね回復基調で推移するものと予想されます。

こうしたなかで当社が主力とするスマートフォン向けの市場においては、引き続き低価格帯モデルの需要拡大により、数量ベースでの大幅な伸びが見込まれますが、部品メーカーへの低価格化要求が一層強まることから金額ベースでは成長の鈍化が予想されます。また、厳しさを増している業界内のシェア争いは今後一段と激化することを懸念しています。

当社は、スマートフォン市場で中心ターゲットとしてきたハイエンドモデル向け販売をミドルモデルにも対象を拡大し、ウェアラブル関連市場への超小型新商品の投入と併せて販売攻勢をかけてまいります。

これらの状況を踏まえた次期の連結業績につきましては、残念ながら減収ではありますが増益を見通しております。なお本見通しにおいては、為替レート1米ドル＝103円を前提としております。

70期（2015年3月期）業績予想

売上高	5,390百万円（前年同期比6.0%減）
営業利益	29百万円（前年同期は320百万円の営業損失）
経常利益	5百万円（同177百万円の経常損失）
当期純利益	14百万円（同236百万円の当期純損失）

今後の市場と当社の方向性

スマートフォン需要は、先進国における高価格帯モデルの急速な普及により一巡化し、市場は落ち着きを見せるなかで、新興国では低価格帯モデルが市場で急激な広がりを見せています。この流れは、高付加価値製品を武器としている当社にとって思わぬブレーキとなりましたが、買い替え需要等によるスマートフォンの出荷台数が2020年には40億台に迫る予測も出ており、今後はスマートフォンやタブレット端末の高速通信化や高機能化が進むものと思われれます。その場合、実装面積の省スペース化やモジュールの複合化がより一層要求されると思われれますので、当社は今後の主力製品に位置づけている「TFX-04」、 「FCX-08」といった超小型製品の需要掘り起こしとこれまでのアジア圏集中からグローバルな拡販に努めてまいります。

自動車向け部品市場は、環境や安全規制がより強まることで、制御・セーフティー系テクノロジーを中心に2025年には27兆円規模に達するとの予測があるなど、成長分野として大変魅力的なものと考えていますが、新規参入となると部品の審査が厳しく、量産を開始した後もコスト削減の厳しい要求に加え、賠償や長期安定供給の責任が求められるなど、障壁の高さがネックとなります。当社の小型製品は、主にカーナビやキーレスエントリー向けのパーツに多く採用されていますが、有望な市場のひとつとして今後も注力してまいります。

次に健康や環境分野を中心としたウェアラブル市場についてお話ししたいと思います。こちらはさらに小型・軽量で低消費電力の部品が求められますので、当社の強み

を十分に発揮できるでしょう。2014年は「ウェアラブル元年」と呼ばれていますが、話題がやや先行し、各メーカーがビジネスモデルを手探りしている感は否めません。既存の概念を打ち破る発想や起爆剤となる商品の登場が望まれているところです。例えば、既に人口減少社会に突入している日本では、労働人口の減少と高齢化が今後一層加速するものと考えられますので、ウェアラブルが健康の維持管理や生活利便性の向上というテーマでクローズアップされるであろうことは想像に難くありません。

いずれにしましても、昨今の部品需要が価格偏重の流れの中で創出されるため、高付加価値の次世代製品をお客様に提案し、新たな市場を創造することが当社の生き残る道であると考えております。

株主還元についての考え方

経営の最重要課題として、長期かつ安定的な企業価値向上により、株主様への継続的な配当を行うことを掲げ、連結業績及び配当性向を総合的に勘案した利益還元を実施することを基本的な考え方としております。これに変わりはありませんが、2014年3月期の配当は業績が減収減益であったこと、また今後の事業展開等を総合的に勘案した結果、中間配当1円、期末配当1円（年間2円）と誠に遺憾ですが前期に比べて1株当たり1円の減配とさせていただきます。2015年3月期におきましては、上記方針並びに企業の成長及び財務の健全性を考慮した内部留保などから総合的に判断し、増配ができるよう一層の努力をまいります。

株主様へのメッセージ

冒頭のポイントで申しあげましたとおり、本年は厳しい業績内容を報告せねばならず忸怩たる思いであります。一方で、新製品や新技術といった新たな取り組みが徐々に実を結びつつありますが、足元では引き続き不透明感の漂う事業環境が予想されますので、従来に増して全社の力を結集し、お客様のニーズを先取りした新製品の開発、コスト低減や生産最適化に挑戦し、業績の回復に取り組んでまいり所存です。今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。





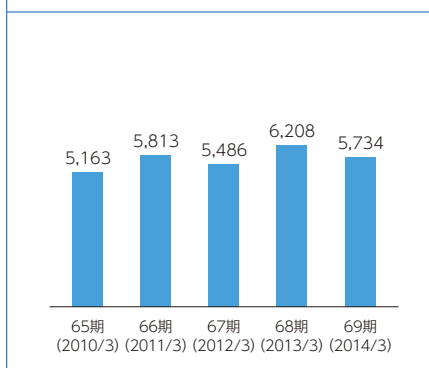
Financial Highlights

5年間の業績推移(連結)

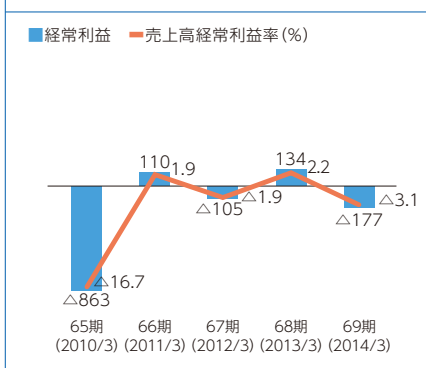
(単位:千円)

3月31日に終了した年度	2010	2011	2012	2013	2014
売上高	5,163,837	5,813,028	5,486,286	6,208,501	5,734,495
売上総利益	315,394	1,362,133	1,196,243	1,309,214	977,474
売上総利益率	6.1%	23.4%	21.8%	21.1%	17.0%
営業利益	△ 883,212	107,771	△ 77,962	3,542	△ 320,408
営業利益率	△ 17.1%	1.9%	△ 1.4%	0.1%	△ 5.6%
経常利益	△ 863,116	110,941	△ 105,241	134,709	△ 177,743
経常利益率	△ 16.7%	1.9%	△ 1.9%	2.2%	△ 3.1%
当期純利益	△ 3,486,428	90,738	△ 201,498	112,142	△ 236,710
当期純利益率	△ 67.5%	1.6%	△ 3.7%	1.8%	△ 4.1%
設備投資	452,501	508,043	862,479	1,238,672	94,505
減価償却費	1,036,913	475,861	518,176	664,598	690,079
研究開発費	165,153	143,684	162,168	177,533	194,971
年度末					
総資産	7,490,442	7,435,024	7,786,351	8,849,059	7,694,590
自己資本	3,136,827	3,144,091	2,890,662	3,132,129	3,068,039
有利子負債	2,562,060	2,659,710	2,904,849	3,881,863	3,041,826
従業員数(人)	372	371	370	362	347
(外、契約社員、派遣社員等)	(310)	(310)	(287)	(288)	(291)

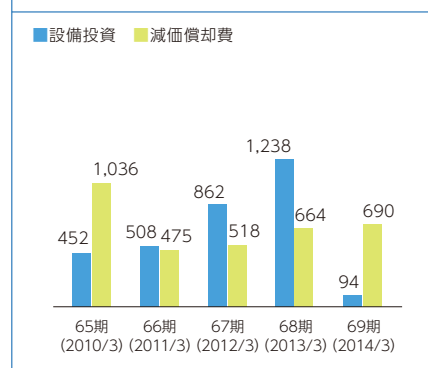
売上高 (単位:百万円)



経常利益・売上高経常利益率 (単位:百万円)



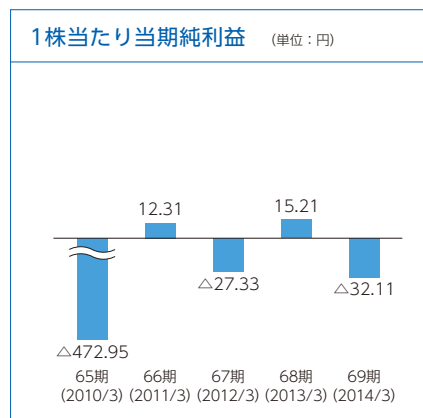
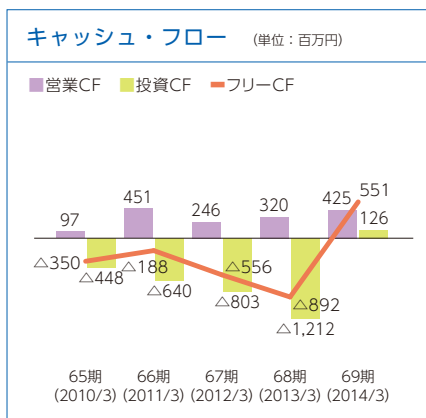
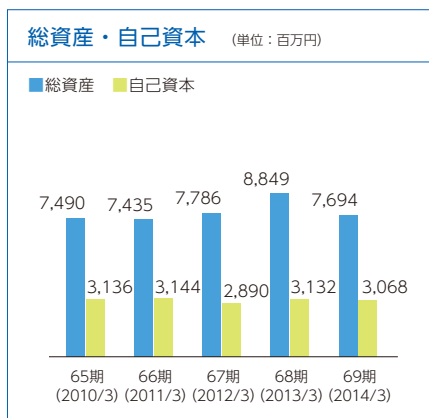
設備投資・減価償却費 (単位:百万円)

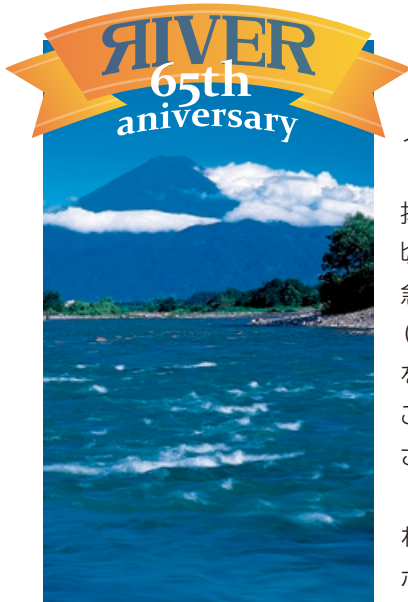


(単位:千円)

3月31日に終了した年度	2010	2011	2012	2013	2014
セグメント別売上高					
水晶製品	4,901,125	5,604,277	5,355,782	6,111,406	5,645,478
構成比	94.9%	96.4%	97.6%	98.4%	98.4%
抵抗器	109,434	—	—	—	—
構成比	2.1%	—	—	—	—
インダクタ	97,646	—	—	—	—
構成比	1.9%	—	—	—	—
その他	55,630	208,751	130,504	97,095	89,016
構成比	1.1%	3.6%	2.4%	1.6%	1.6%
キャッシュ・フロー					
営業活動によるキャッシュ・フロー	97,837	451,477	246,785	320,106	425,434
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 448,604	△ 640,438	△ 803,499	△ 1,212,727	126,198
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 258,941	97,483	217,191	861,353	△ 868,611
現金及び現金同等物の期末残高	1,149,417	1,043,543	690,546	705,701	448,986
(単位:円)					
1株当たり指標					
1株当たり当期純利益	△ 472.95	12.31	△ 27.33	15.21	△ 32.11
1株当たり純資産	425.53	426.52	392.14	424.90	416.21
1株当たり配当金	0.00	3.00	3.00	3.00	2.00

注) 2011年3月期より報告セグメントを「水晶製品事業」と「その他の電子部品事業」に変更しております。





リバーエレクトック株式会社は、今年3月に創業65周年を迎えることができました。これを記念して、本社敷地内に78本目となるソメイヨシノの記念植樹を行いました。

当社は、1949年に山梨県韮崎市の釜無川（富士川上流）の辺で抵抗器の製造・販売メーカーとしてスタートしました。1950年代の中頃は、高度経済成長で人々の暮らしも豊かになり家庭用電化製品が急速に各家庭へ普及した時期です。その頃、東京通信工業株式会社（現ソニー株式会社）が世界初を目指してトランジスタラジオの開発を行っていました。それへの要請で小型のカーボン抵抗器を開発したことが、当社の開発ポリシーである「どこまでも小さく、どこよりも小さく」の原点となっています。

抵抗器で培われていった開発ポリシーは、1970年代後半

から参入した水晶デバイス事業にも引き継がれ、後に水晶デバイスの独創的なパッケージング技術（電子ビーム封止工法）と超小型製品の開発に至ります。

水晶デバイス事業は、業界では後発でしたが、小型の表面実装タイプに特化し、差別化を図ることで、業界をリードしてまいりました。

水晶デバイスは、パソコン、スマートフォン、オーディオ・ビジュアル機器をはじめ、自動車などのあらゆるエレクトロニクス機器に使われており、私たちの生活を支えるキーデバイスとなっています。今後、機器の利便性が高まり高性能化が進むにつれて、部品に対する要求も高度化・多様化します。源流から発した川が大海に出て行くように新しい発想で価値を創造し、世界へ発信して行きます。

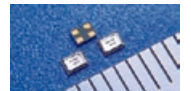
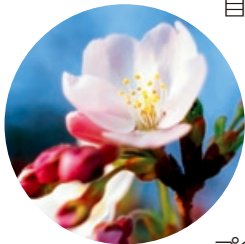
もちろん65周年は通過点に過ぎません。これをひとつのステップとしてリバーグループのさらなる発展を誓い、ソメイヨシノに込められた夢や希望を大切にしていきたいと思います。



昭和30年代、台風や水害を避け釜無川沿いから小高い場所に移転しました



創業時の抵抗器を中心とした製品（上）と現在主力の水晶製品（下）





New Products

新製品情報



GT-cut水晶振動子

- 小型低背(1.6mm×1.2mm×0.35mm Max.)
- 8 ~ 20MHz
- 狭い常温周波数偏差への対応
- 従来のMHz帯AT-cut振動子では実現不可能な広い温度範囲での周波数安定性
- 低消費電力での駆動が可能
- 電子ビーム封止による高信頼性、良好な経時変化

GTを紐解く
4つのキーワード

小型低背 高精度
低周波 省電力

開発担当A



新製品としてGTカット水晶振動子とLamb波共振子をリリースしましたが、今回はGT水晶振動子について解説したいと思います。

この製品のアピールポイントは何でしょう?

記者



優れた温度特性です。GTカットが生み出す水晶の周波数温度特性は、ATカット水晶を凌ぐ抜群の安定性を誇ります。温度が変わっても、周波数が変化しにくいのです。

温度による周波数変化をグラフで表すと、AT振動子に比べ、よりフラットな3次曲線を描けるイメージですね。どのような仕組みでしょうか?



特徴的な振動モードを使って、使用温度範囲内でも周波数が変わらないようにしています。そのために2つの振動モードを組み合わせてコントロールしています。



もうひとつ、低消費電力もアピールポイントです。振動片の長さ幅寸法や厚さを最適に設計し、振動ロスを最小限に抑えることに成功しました。



製品はWEBサイトでも公開しています。次号ではLamb波共振子を特集します。ご期待ください。

👍 イイね!

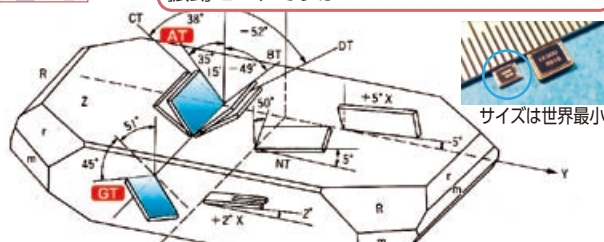


Lamb波共振子

- 小型(5.0mm×3.2mm×1.1mm Max.)
- 300MHz ~ 1.2GHz
- 従来のSAW共振子より狭い常温周波数偏差
- 従来のSAW共振子を圧倒的に凌ぎ、AT振動子に迫る周波数温度特性
- PLL通倍発振器と比較し、良好なジッタ特性、位相雑音特性
- 電子ビーム封止による高信頼性、良好な経時変化



水晶には様々なカット方法や振動モードがあると聞きます。GTカットはどんなカット方法、振動モードですか?



水晶を切り出す角度や寸法、使用する振動モードによって、周波数、その温度特性に特徴が出ます。ATとは異なる切り出し方法のGTカットは、幅縦(主)と長さ縦(副)結合モードの輪郭系振動を使用しています。

開発担当B



幅縦振動モード(主振動:左)と長さ縦振動モード(副振動:右)



商品化にあたって難しかったことは何でしたか?

安定した周波数特性と耐久性や信頼性を両立させることに時間を要しました。この水晶片は独特な形状ですが、リバーの技術力とノウハウの結晶です。



当期業績の概要

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和政策を背景に円安・株高が進み、景気は緩やかな回復傾向が続きました。海外においては、先進国経済は回復基調にありましたが、新興国経済は成長鈍化傾向が見られるなど、先行き不透明感を払拭できない状況が続きました。

当社グループの主要な市場であります水晶製品業界におきましては、スマートフォン向けの需要は旺盛でありましたが、その主体は新興国を中心とした低価格帯モデルであり、ハイエンドモデルの伸び悩みとともに市場競争が激化したこと、デジタルカメラやテレビ等の民生機器向けの需要の停滞など、引き続き予断を許さない状況となっております。

このような状況のなか、当社グループは、「超小型水晶デバイス」を軸とした事業展開と生産性の向上に努め、収益の確保に取り組んでまいりました。



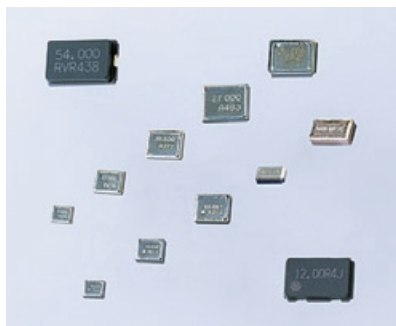
この結果、当連結会計年度の業績は、無線モジュール向けは前年同期並みであったものの、スマートフォン向け、デジタルカメラ向けが伸び悩み、売上高は前年同期に比べ7.6%減の5,734百万円となりました。利益面では、コスト削減に努めましたが、減収による利益押し下げの影響を補いきれず320百万円の営業損失（前年同期は3百万円の営業利益）となりました。また経常損失については為替差益の発生等もあり、177百万円（同134百万円の経常利益）となりましたが、当期純損失は減損損失の計上等もあり、236百万円（同112百万円の当期純利益）となりました。

売上高	5,734 百万円
営業利益	△ 320 百万円
経常利益	△ 177 百万円
当期純利益	△ 236 百万円

セグメント別事業概要

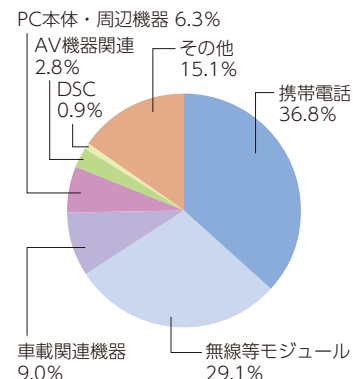
水晶製品事業

連結売上高：56億45百万円 セグメント損失：1億75百万円



水晶製品事業につきましては、無線モジュール向けは車載向けが比較的好調であり、売上高は前年同期に比べ微増となりましたが、スマートフォン市場におけるハイエンドモデル機の成長が鈍化した影響を受けたことから、受注が期初の想定を大きく下回り、売上高は56億45百万円と前年同期比で7.6%の減収、セグメント損失は175百万円（前年同期は184百万円のセグメント利益）となりました。

用途別売上高構成（連結）



その他の電子部品事業

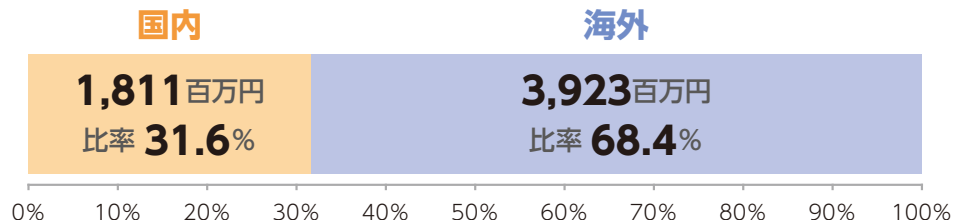
連結売上高：89百万円 セグメント損失：2百万円



その他の電子部品事業につきましては、海外向けの抵抗器やインダクタ等の事業を中心に展開しております。

抵抗器の生産縮小及びインダクタの生産終了の影響から販売数量が減少しており、当事業の売上高は89百万円（前年同期比8.3%減）、セグメント損失は2百万円（前年同期は49百万円のセグメント損失）となりました。

国内海外 売上高構成（連結）





Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

連結のポイント

ポイント：貸借対照表

1 資産

たな卸資産の増加はあったものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金、有形固定資産の減少により、前期に比べ1,154百万円の減少となりました。

2 負債

短期借入金、長期借入金の減少により、前期に比べ1,090百万円の減少となりました。

ポイント：損益計算書

3 営業損失

円安による為替の利益押し上げ効果があったものの、価格下落による利益圧迫の影響が大きく、320百万円の損失を計上しました。

4 経常損失・当期純損失

円安による為替差益の計上があったものの、減損損失等を計上したことから、経常損失は177百万円、当期純損失は236百万円となりました。

ポイント：キャッシュ・フロー計算書

5 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純損失、仕入債務の減少による支出はありましたが、減価償却費、売上債権の減少により、425百万円の収入となりました。

6 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の預入による支出はありましたが、定期預金の払戻による収入により、126百万円の収入となりました。

7 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金による収入はありましたが、長期借入金の返済、社債償還による支出により、868百万円の支出となりました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科目	当期 (2014年3月31日現在)	前期 (2013年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	4,086,137	4,787,716
現金及び預金	960,813	1,382,842
受取手形及び売掛金	1,257,727	1,696,688
たな卸資産	1,719,018	1,501,956
その他	154,117	212,609
貸倒引当金	△ 5,539	△ 6,380
固定資産	3,608,453	4,061,343
有形固定資産	3,277,693	3,771,204
無形固定資産	15,281	16,492
投資その他の資産	315,478	273,646
1 資産	7,694,590	8,849,059
負債の部		
流動負債	2,685,285	3,337,772
支払手形及び買掛金	487,096	794,512
短期有利子負債	1,765,907	2,056,740
その他	432,281	486,519
固定負債	1,941,265	2,379,157
長期有利子負債	1,435,919	1,825,123
その他	505,346	554,034
2 負債	4,626,550	5,716,930
純資産の部		
株主資本	3,125,920	3,384,806
資本金	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	957,810	957,810
利益剰余金	1,115,431	1,374,255
自己株式	△ 17,841	△ 17,779
その他の包括利益累計額	△ 57,880	△ 252,676
その他有価証券評価差額金	18,205	6,015
為替換算調整勘定	△ 76,086	△ 258,692
純資産	3,068,039	3,132,129
負債純資産	7,694,590	8,849,059

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2013年4月1日から 2014年3月31日まで	2012年4月1日から 2013年3月31日まで
売上高	5,734,495	6,208,501
売上原価	4,757,021	4,899,287
売上総利益	977,474	1,309,214
販売費及び一般管理費	1,297,882	1,305,672
3 営業利益又は営業損失(△)	△ 320,408	3,542
営業外収益	178,906	177,505
営業外費用	36,241	46,338
4 経常利益又は経常損失(△)	△ 177,743	134,709
特別利益	12,784	272
特別損失	55,738	1,514
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△ 220,696	133,466
法人税、住民税及び事業税	14,376	23,429
法人税等調整額	1,636	△ 2,105
少数株主損益調整前当期純利益又は 少数株主損益調整前当期純損失(△)	△ 236,710	112,142
4 当期純利益又は当期純損失(△)	△ 236,710	112,142

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2013年4月1日から 2014年3月31日まで	2012年4月1日から 2013年3月31日まで
5 営業活動によるキャッシュ・フロー	425,434	320,106
6 投資活動によるキャッシュ・フロー	126,198	△ 1,212,727
7 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 868,611	861,353
現金及び現金同等物に係る換算差額	60,264	46,422
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 256,714	15,155
現金及び現金同等物の期首残高	705,701	690,546
現金及び現金同等物の期末残高	448,986	705,701

連結株主資本等変動計算書

当期(2013年4月1日から2014年3月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	1,070,520	957,810	1,374,255	△ 17,779	3,384,806	6,015	△ 258,692	△ 252,676	3,132,129
当期変動額									
剰余金の配当			△ 22,114		△ 22,114				△ 22,114
当期純損失(△)			△ 236,710		△ 236,710				△ 236,710
自己株式の取得				△ 61	△ 61				△ 61
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						12,190	182,605	194,796	194,796
当期変動額合計	-	-	△ 258,824	△ 61	△ 258,886	12,190	182,605	194,796	△ 64,090
当期末残高	1,070,520	957,810	1,115,431	△ 17,841	3,125,920	18,205	△ 76,086	△ 57,880	3,068,039

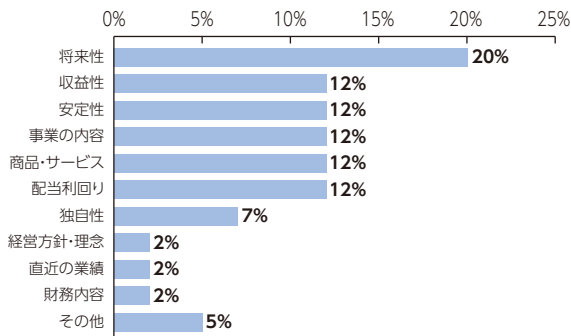


Stakeholders Communication

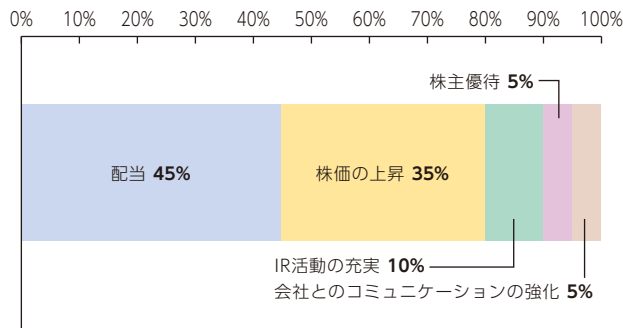
株主様アンケート結果のご報告

第69期中間株主通信においてお願いいたしました株主アンケートに、多くの株主の皆様からご回答を頂戴いたしました。心からお礼申し上げますとともに、お寄せいただきましたご回答をご紹介します。内容を真摯に受け止め、今後のリバーグループの経営及びIR活動に活かしてまいります。

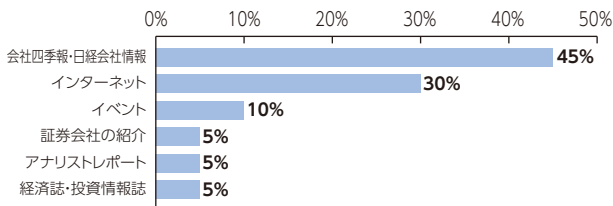
1. あなたが当社に魅力を感じている点は何ですか。(3つまで)



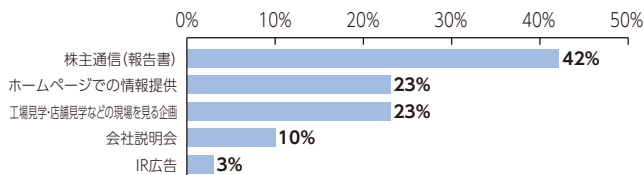
4. 株主として当社に最も期待するものは何ですか。



2. あなたは当社をどこでお知りになりましたか？



3. 充実を期待するIR活動についてお聞かせください。(4つまで)



株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6666

いいかぶ

検索

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

※この回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com



Corporate Profile & Stock Information

会社概要・株式の状況

会社概要

(2014年3月31日現在)

商号	リバーエレテック株式会社 RIVER ELETEC CORPORATION		
設立	1951年3月9日		
資本金	10億7,052万円		
従業員数	89名		
役員 (2014年6月30日現在)	代表取締役社長	若尾 富士男	
	常務取締役	三枝 康孝	
	取締役	高保 譲治	
	取締役	萩原 義久	
	取締役	若尾 敦雄	
	常勤監査役	古屋 延行	
	社外監査役	越智 大藏	
	社外監査役	丸山 正和	

事業所

本社	〒407-8502 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号
東京営業所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目40番14号
大阪営業所	〒570-0083 大阪府守口市京阪本通1丁目3番2号 新近藤ビル3F

リバーグループ(子会社の状況)

会社名	資本金	議決権比率(%)	事業内容
青森リバーテクノ株式会社	50,000 千円	100	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	19,200 千台湾元	100	電子部品の販売
River Electronics (Singapore) Pte.Ltd.	123 千米ドル	100	電子部品の販売
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.	25,400 千マレーシアリンギット	100	電子部品の製造
西安大河晶振科技 有限公司	30,023 千元	100	電子部品の製造・ 販売

株式の状況

(2014年3月31日現在)

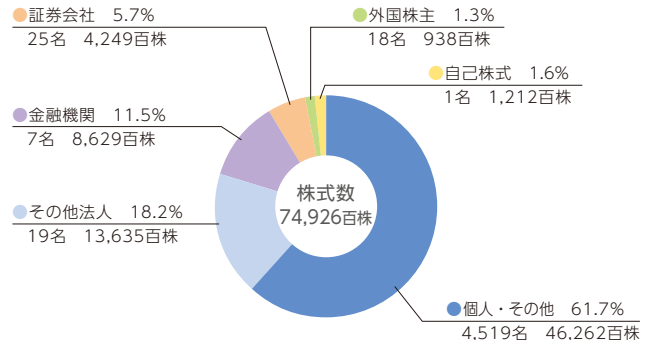
発行可能株式総数	21,600,000株
発行済株式の総数	7,492,652株 (自己株式121,222株を含む)
株主数	4,589名 (前期末比2,025名増)

大株主

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
若光株式会社	12,233	16.60
株式会社山梨中央銀行	2,680	3.64
日本証券金融株式会社	2,346	3.18
若尾 富士男	2,003	2.72
若尾 磯男	1,651	2.24
株式会社みずほ銀行	1,500	2.03
株式会社SBI証券	1,319	1.79
若尾 亘	1,281	1.74
リバー従業員持株会	1,245	1.69
株式会社商工組合中央金庫	1,200	1.63

(注) 持株比率は、自己株式1,212百株を控除して計算しております。

所有者別株式数分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付／ 電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-288-324 (フリーダイヤル)
公告方法	当社ホームページに掲載する。(電子公告) < http://www.river-ele.co.jp/ > ただし、事故その他の止むを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)

未払い配当金の支払い、支払い明細等の発行に関するお問い合わせ

お手続きお問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 株式会社みずほ銀行 本店及び全国各支店

住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取り方法のご指定、相続に伴う手続き等

証券会社でお取引をされている株主様

お手続きお問い合わせ先	お取引のある証券会社
-------------	------------

特別口座に記録されている株主様

特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
お手続きお問い合わせ先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)
特別口座での留意事項	①特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社にお取引の口座を開設し株式の振替手続を行う必要があります。 ②株券電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。